

# 退休寺第1遺跡発掘調査速報

## 謎の「ぐるぐる」出現！

教育委員会では昨年11月、12月に、町道退休寺線改良工事に伴う退休寺第1遺跡の発掘調査を実施しました。

世頃の自然小河川の跡などを検出しました。

調査面積948㎡の範囲から、弥生時代中期終わり頃、後期初め頃（約2000年前）（約1900年前頃）の「縦穴住居跡2棟、柱穴状の小土坑20基、溝状遺構2条、縄文時代終わり頃を中心とする中

出土遺物は、縦穴住居跡から出土した弥生土器や鉄器をはじめ、縄文時代終わり頃（約2300年前頃）から江戸時代終わり頃（約1700年前頃）にいたる各時代の土器類、青銅製品、土製品（鏝型か？）、石鏃、鉄滓など400点余りです。

縄文土器に付いたモミ痕など

ら、当時この周辺の人々が、狩猟や採取を中心とする生活をしながら、ヒエやアワなどを管理する程度の農耕も行っていたと考えられます。弥生時代の中期終わり頃、現在の殿河内集落南側から退休寺南側にかけての一带に下市川水系における大集落が営まれます。今回検出した住居跡はその大集落の一部と考えられるもので、当時の人々の様子をよく物語っています。

### 【ナノの青銅製遺物】

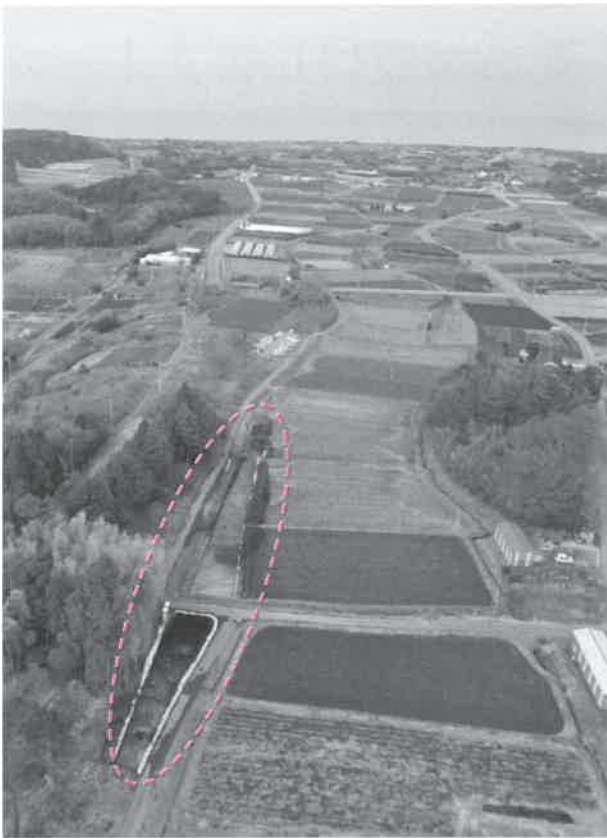
大きな謎として残るのが、今回出土した青銅製遺物で

す。一点は針金状のものを両側からぐるぐる巻いて「蕨手状」にして背を合わせ、芯状になった部分を折り返した形状で、幅約2.1センチ程度の小形なものです。国内では類例がありません。もう一点は、細いヘラ状のもので基部側に直径約2ミリの孔があけてあり、全長約5.5センチ、厚さが6ミリ程度のすごく薄いものです。これも用途不明です。これらは「作られた時期も場所も不明ですので、今後、それらの謎を解明するために分析などを行う予定にしています。

## 大山ボーイズスポーツ少年団 全国大会へ！

昨年9月28、29日にどらドラパーク米子市民球場（米子市）で行われた「第44回日本少年野球春季全国大会山陰支部予選」に大山ボーイズが出場し、創部4年目で見事、初優勝を飾られました。

この結果、大山ボーイズは、3月に東京都で開催される全国大会に出場されます。山陰の代表として、全国に「だいせん旋風」を巻き起こしてください。



▲調査区（南側から日本海方向を望む）



▲蕨手状青銅製遺物（上）とヘラ状青銅製遺物（下）



▲喜びいっぱいの大山ボーイズのみなさん